会員相互の交流と地域全体の活性化への寄与

群馬県沼田市　薄根地域ふるさと創生推進協議会

■はじめに

首都圏の都市住民を対象とした棚田のオーナー制度や、味噌づくり体験、野菜・果樹収穫体験事業など、都市住民との交流促進を目的とした活動に取り組んでいます。また最近では、里山の自然環境の保全とホタルの復活を目指して、地元薄根小学校の児童に協力してもらい『カワニナ養殖事業』を手がけたり、地元住民やボランティア、地元の薄根中学校の生徒の協力により、棚田にソーラーライトを設置して、イルミネーション点灯イベントを開催したりと、精力的な活動を続けています。

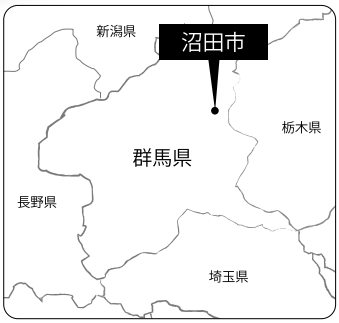
オーナーによる田植え作業

■取り組みについて

薄根地区は、小中学校の学区が一つということもあり、元来まとまりが良いと言われていましたが、産業構造の変化等に伴う人口減少により、耕作放棄地が増え、消防団や育成会の役員の担い手が見つからないなど、地域コミュニティの運営に影響がでてきています。

このような現状を鑑み、将来の地域のあり方を考えた結果、薄根地区の活性化のために

体験施設兼活動拠点の「くわのみハウス」



味噌づくり体験

石墨棚田の再生とホタルの復活を中心として取り組むことを決定しました。そのためには、広範な個人や団体が結集するための受け入れ団体が不可欠であり、２０１８年12月に「薄根地域ふるさと創生推進協議会」が設立されました。

協議会設立後、まず取り組んだことは、耕作放棄地を借り上げ、荒れた田んぼの草刈りと整地作業でした。メンバーが持ち寄った重機や草刈り機を用い、背の丈もあるような草を伐採しました。大変な作業でしたが、景観保全を考慮しながら作業を進め、広場と駐車スペースを確保しました。棚田は雑草を刈り、広場に運び出し、トラクターで何度も耕耘した結果、ようやく田植えができるようになりました。また、耕作放棄地の一部を活用し、ビオトープの水路を作り、ホタルのえさとなるカワニナの養殖に取り掛かりました。

２０１９年３月には、空き家を借り上げ、体験施設兼事務所・会議室（くわのみハウス）として活動の拠点としました。同時に、棚田を維持・活用していくために「オーナー制度」を導入することとし、棚田オーナーの募集を始めました。初めての取り組みながら８組の申込があり、２０２３年度はリピーター含め30組超と着実に広がっています。今年度は法人オーナーも４組参加して頂き、社内コミュニケーションにも活用して頂きました。

薄根小学校生徒によるホタルの餌となるカワニナの放流

カワニナ養殖は、地元の薄根小学校の協力のもと、子どもたちによる養殖をスタートしました。２０１９年11月には育てたカワニナの放流会を実施し、子どもたちに放流してもらうと共に、棚田周辺の水生生物等の説明も行いました。

カワニナを放流した翌年（２０２０年６月）、予期していなかった数のホタルが飛び立ちました。上毛新聞に掲載してもらい、県内各地から見学者が訪れました。２０２２年６月に「ホタルまつり」と題してホタル観賞者への案内を行っていますが、一晩で１００人が鑑賞に訪れた日もありました。この活動は２０２０年度には新型コロナにより中止となりましたが、２０２１年度からは継続しています。

協議会は、石墨棚田の再生とホタルの復活を中心として活動していますが、10月末の収穫祭終了後も、さまざまなイベントを実施しています。味噌づくり体験は、５年目となり、今年度は２０２４年２月末から３月にかけて実施しました。地元産の材料（大豆は沼田市下川田町産、麹は沼田市白沢町のこうじ店、水は高王山の伏流水）にこだわった味噌づくりは大変好評で、県内外から60組の参加がありました。

このような活動を続けてきた結果、２０２２年３月25日、農林水産省が進めていたポスト棚田百選「つなぐ棚田遺産」に認定されました。このことは私たちにとって大きな励みになり、地元の人たちにとってもふるさとを誇りに思う気持ちが高まったものと思います。これまでも地元の皆さんには、竹藪の伐採等の景観

保全、イベントの支援等に参加いただいていますが、認定以降は、より積極的に関わってもらえるようになったと感じています。また、市民の間にも認知が広がり、カメラやキャンバスを抱えて訪れる人たちも増えています。さらに県内各地からも「群馬にも棚田があった」と訪れる人が出てきました。２０２２年８月29日には、棚田地域振興法の規定に基づき沼田市旧薄根村(石墨棚田)が新たに指定棚田地域に指定されました。これにより棚田保全活動に取り組む私たち協議会及び地元の皆さんの励みになり、各省庁が用意する各種補助金の支援が受けられることになりました。さらに私たちの活動が認められて２０２３年11月に「豊かな村づくり」農林水産大臣賞を受賞することができました。このことにより私たちの活動が広く認知されました。

棚田でイルミネーション点灯

２０２２年度は、新しいイベントとして、「干し柿づくり体験」「石墨棚田イルミネーション」を実施しました。これまでは、お世話になった人のために作っていた干し柿を「干し柿づくり体験」のイベントとして初めて開催しましたが、継続して実施していきたいと考えています。石墨棚田イルミネーションは、棚田の景観を冬にも活かせないか、との発想から２０２２年11月～12月の約１か月間実施しました。ソーラーライト２５００本(２０２４年にはさらに１０００本を追加)を設置し、電飾は法人２社、個人１名、協議会１、職場３団体が展示しました。期間中の来訪者は約５００人(名簿記載者のみ)となりました。設置に駆け付けたボランティア40名の苦労も、来場者が撮影した写真が、沼田フォトコンテストで入選したことで報われたと思います。２０２３年１月には協議会の取り組みが評価され。地元のＦＭ局(ＦＭ尾瀬)から、ハートウォーミング大賞を受賞し表彰されました。

薄根中学校の生徒の協力によるイルミネーション作り

今後の協議会の事業は、「棚田オーナー制度」「味噌づくりなどの各種体験イベント事業」「棚田米の販売事業」の３つを中心として運営し、薄根地区さらには沼田市の活性化につながるように尽力していきたいと考えています。

(薄根地域ふるさと創生推進協議会
会長　桑原敏彦)

企業による稲刈り体験